

Work Life Balance — 仕事と生活の調和を目指して —

男女共同参画懇談会

子育てで支援で社会が変わる！

7月26日市内にお住まいの20歳代から70歳代までの男女5人の方にご参加いただき、「仕事と生活の調和をテーマに様々なお話を伺いました。市長

皆さん、本日はお集まりいただきありがとうございます。

先日、男女共同参画研修会公開講座において、東京大学の瀬地山先生のシンポジウムを聞きまして、「なるほどな」と感じる話がありました。

子育てを林業に例えての話でしたが、将来に向けた植林をせず伐採だけして販売する業者の木は安価で出荷できるが、植林をしながら出荷する業者の木は必然高い価格になる。安価であることだけが重点になると、山は森を失い大雨の際には大洪水を起こすようになる。大洪水の被害が誰に及ぶかといえば、地域の住民であるというお話でした。

我々が、価格第一主義にたつた近視眼的活動い、ゆるりサイクルを考えない生活を営んできた結果、フランスの悪い社会になってしまいました。少子化問題などがその例であります。近年の社会は、全てにおいてこのようなことが起きているのではないかと感じています。



伊藤 ます、社会がどうなっているか考えると、多くの人が都心の職場近くに住居を構えたくても経済的などの理由で叶わず、長時間通勤を強いられる。

また、長時間労働ができる人間こそ、能力がある戦力になると言われてきた弊害が今、少子化問題となっており、出てくる。

私も例に漏れず、現役中は、長時間通勤だったので家庭や地域に参画したくてもできなかった。定年退職後、近所にあいさすする人さえないことになり愕然とした。

これではいけないと、ボランティアサークル「うしお文庫」に入会した。昨年シニア世代のサークル「やお元氣ネット」を立ち上げ、地域に役立つシニアを目指している。

市長

まさに、戦後の日本をこれだけに復興させてくれた伊藤さんの年代の方々がおられたからこそ豊かですが、時代が変わり、仕事一辺倒だけの生活を望まない若者も増えてきました。また仕事を継続するため、子どもを産むことを躊躇うようになる女性も多い。

だからこそ、意識改革が必要とされているのではないのでしょうか。

伊藤 そのとおり、子どもがピンチということは高齢者がピンチということだ。

今のシニアは元氣である。自身の趣味を楽しむ人も多いが、地域のために何かやりたいと思う人もまた多い。役に立たない年寄りと思われられるより、人の役に立ちたいものだ。

若し世代が安心して子育てできるように、登下校の見守りなど我々ができることがあると思つて。小野

私の時代は、夫の手を煩わせない範囲で仕事をするという意識が強かったため、子どもが熱を出したときなど、夫に保育園のお迎えを頼むことには限界がありました。実家が遠く典型的な核家族であったので、助けられたのは近所のお友達や地域の人でした。

伊藤さんの提案にあつたように、登下校の見守りなど大変かと思う。また、ほんの短時間でも子どもを預かってくれるなど、助けてもらえたらとても良いと思う。

伊藤 逆に、若い父母にお願いしたい。近所の年寄りの家に子どもが遊びに行くことを暖かく見守つて欲しいな。

こちは、子どもと遊びたいなと思つても「行っちゃダメよ」と言われたら、コミュニティなど発展しない。今の時代、危険も多いので気持ちよはわかるが、パリアを張りすぎないでほしいな。

市長 保育所の拡充も重要だが、子育ては、親と保育所だけではできない。親と保育所の間に、祖父母や（※ファミリーサポート・センターなどの地域の手助けが必要だ。

佐々木 女性が働くことが多くなった今でも、子どもを持った女性の多くは男性並みの長時間労働長時間通勤はできません。子どもを持った女性は定時で職場から帰り、家事と育児をやり繰り返しています。

雇用側はいえ、やはり長時間労働できる男性を能力があると査定しますので、この意識が変わらない限り永遠に女性が働きやすい社会にならない、と思います。

また、女性も女性ならではの仕事、職域を上手にPRしなくてはならないと思います。

鈴木 ㈱拓洋では、（※埼玉県「子育て応援企業」に登録し、①育児のための休暇を気兼ねなく取得できるように円滑に交代できる業務体制づくり、②夫婦が協力して育児ができるよう残業の削減に取り組まれました。

今日は、参考になる意見が伺えると思つて来ました。今熊

1年間の（※育児休業を取る）と言った時、かなり驚かれました。周りの反応は様々で、男性の中には「よくできるねえ」と、最初から男性が育児休業することが選択肢に入つていないという反応も多く見られましたが、女性からは手放しで喜ばれ拍手されました。

1年間、家事全般を担って解つたのですが、本当に大変です。子どもと家に一人つきりだ行き詰まってしまうので、よく近所の公園に遊びに行きました。公園仲間のお母さんから「すてっの会」を紹介してもらい、つい始めました。その縁があつて今、この場にいるのです。

私は教員ですから育児休業が取りやすい面があります。民間企業の人にとっては難しい面も多々とは思いますが、ぜひ多くの男性に育児休業を取ってもらいたいですね。小野

育児休業は、今熊さんにとって大変実りのあるものだったようですが、子供の側にとつても、お父さんが育児休業をとることは大変素晴らしいことです。

また、今熊さんのおかげで、すてっの会のお父さん方も大いに刺激を受けているようです。子育ては直ぐに結果をみることはできませんが、父親の育児参加は、いずれ少子化などの問題解決に繋がっていくのではないかと感じています。

子育てを1人で担おうとすると大変辛いものですが、夫の協力と職場や地域の理解があれば子育ては大変楽しいものになるはず。小野



伊藤さんの提案にあつたように、登下校の見守りなど大変かと思う。また、ほんの短時間でも子どもを預かってくれるなど、助けてもらえたらとても良いと思う。

伊藤 逆に、若い父母にお願いしたい。近所の年寄りの家に子どもが遊びに行くことを暖かく見守つて欲しいな。

こちは、子どもと遊びたいなと思つても「行っちゃダメよ」と言われたら、コミュニティなど発展しない。今の時代、危険も多いので気持ちよはわかるが、パリアを張りすぎないでほしいな。

市長 保育所の拡充も重要だが、子育ては、親と保育所だけではできない。親と保育所の間に、祖父母や（※ファミリーサポート・センターなどの地域の手助けが必要だ。

①職業
②家族
③その他
いま 今熊
①小学校教諭
②妻、子
③1年間の育児休業を終え4月から復職。共働きの大変さを実感しています。

すずき 鈴木 聡
①商工会青年部役員
㈱拓洋 勤務
②妻
③埼玉県「子育て応援宣言企業」に登録し、社員の福利厚生に取り組んでいます。

さき 佐々木 幸江
①会計記帳代行会社勤務
②夫と子2人
③パート。子供の成長と一緒に自分も社会参画を深めています。

おの 小野 光子
①自営業
元保育士
②夫と子3人
③現在、夫の仕事を手伝いながら、若い父母のためのサークル「親子で楽しく・すてっの会」代表を務めています。

いとう 伊藤 光益
①元公務員
②妻
③熟年期を迎え、シニア世代が地域で果すべき役割について模索中。
シニアのための地域活動団体「元氣ネット」代表を務めています。



左から、今熊さん・伊藤さん・小野さん・佐々木さん・鈴木さん・多田市長

鈴木 企業も、子育て支援が充実していることを積極的にPRすれば優秀な人材が集まってくると思いますが、また、そのような企業が増えれば世の中も変わっていくのではないのでしょうか。

伊藤 ISOは今では企業のステータスシンボルになっていますが、子育て支援もステータスシンボルになると良いですね。

先ほど小野さんも言われましたが、お父さんの育児休業は、家族関係を良くするだけでなく仕事に対しても実り多いものになると思います。

今熊さんの育児経験は、教員としての仕事に役立ったではありませんか？

今、受け持ちの子どものお母さんたちとも良い関係を築くことができていると思つています。

市長 企業が、高額な経費を費やして社員研修を行っていることを考えたら、1年間の育児休業は安いものですね。

第二に商品を買ってくれるのは女性ですからね。女性の心をつかめる。大いに企業には育児休業を推進していただきたいですね。

魅力ある企業として、男性の育児休業を推進したいですね。伊藤

いや、育児休業をよく取つた。敬意を表します。休業するには職場はもちろん地域の理解が必要だから、我々シニア世代が、奥さんの尻に敷かれているんじゃないかなんて思てはいけないんだ。

こういった意識を変えていくのが、行政の役目じゃないかな。70年生きてきて、すぐに意識を変えるのは難しいけど、繰り返し繰り返し言われれば少しは変わるものだからね。市長

今、世の中の価値観が大きく変わってきています。今日この懇談会を、八潮の未来を担う子ども達のために役立てたいと思つています。本日はありがとうございます。

伊藤さんの提案にあつたように、登下校の見守りなど大変かと思う。また、ほんの短時間でも子どもを預かってくれるなど、助けてもらえたらとても良いと思う。

伊藤 逆に、若い父母にお願いしたい。近所の年寄りの家に子どもが遊びに行くことを暖かく見守つて欲しいな。

こちは、子どもと遊びたいなと思つても「行っちゃダメよ」と言われたら、コミュニティなど発展しない。今の時代、危険も多いので気持ちよはわかるが、パリアを張りすぎないでほしいな。

市長 保育所の拡充も重要だが、子育ては、親と保育所だけではできない。親と保育所の間に、祖父母や（※ファミリーサポート・センターなどの地域の手助けが必要だ。

佐々木 女性が働くことが多くなった今でも、子どもを持った女性の多くは男性並みの長時間労働長時間通勤はできません。子どもを持った女性は定時で職場から帰り、家事と育児をやり繰り返しています。

雇用側はいえ、やはり長時間労働できる男性を能力があると査定しますので、この意識が変わらない限り永遠に女性が働きやすい社会にならない、と思います。

また、女性も女性ならではの仕事、職域を上手にPRしなくてはならないと思います。

◎Work Life Balance (ワーク・ライフ・バランス)

「仕事と生活の調和」を意味し、欧州では10年以上前から広がってきた考え方です。育児や介護、家事、ボランティア、趣味などと仕事を両立し、生活と仕事の充実を図ることを意味します。仕事一辺倒でない生活を推進することで、生活そのものが好循環し、明るく生き生きとした社会の醸成を目指します。近年わが国においても、「ワーク・ライフ・バランス」を重視する意識が高まってきました。

◎育児休業

「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」育児又は家族の介護を行う労働者の職業生活と家庭生活との両立が図られるよう支援することによって、その福祉を増進するとともに、我が国の経済及び社会の発展に資することを目的としています。・育児休業制度（法第5条～10条）労働者は、申し出ることにより、子が1歳に達するまでの間、育児休業をすることができます。

◎「子育て応援宣言企業」登録制度

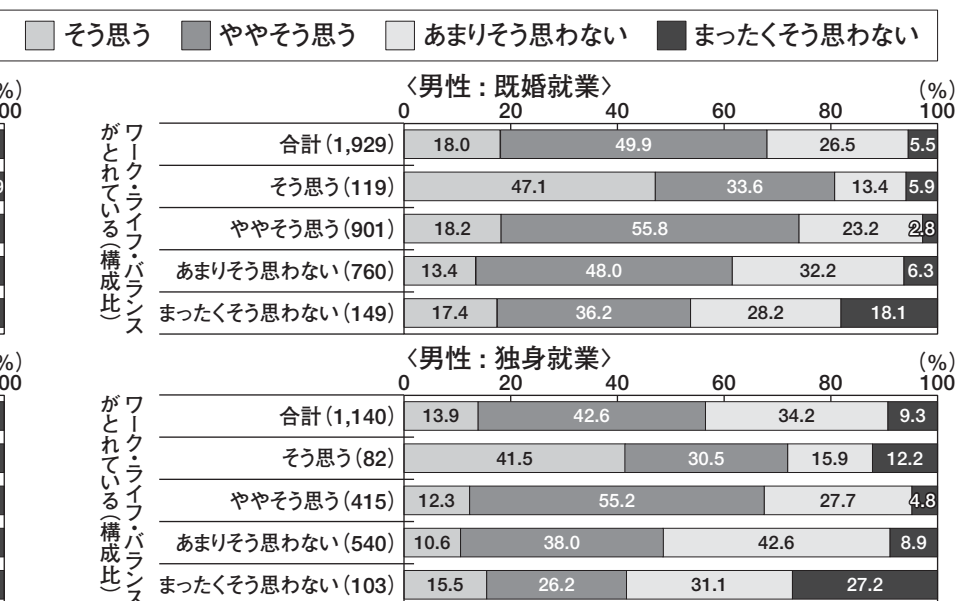
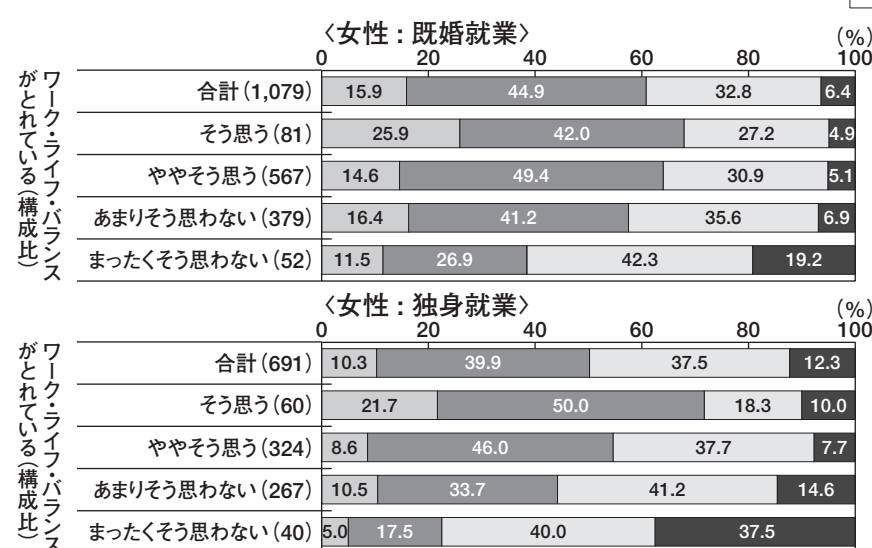
従業員の仕事と子育ての両立支援や地域における子育て支援に熱心に取組む会社・事業所を県で募集、登録する制度です。現在八潮市では、㈱拓洋と㈱イワークが登録しています。詳細は埼玉県庁ホームページhttp://www.pref.saitama.lg.jpで確認できます。

◎ファミリー・サポート・センター

仕事などで保育所や幼稚園への送り迎えができない。外出したいが、子ども連れでは出かけにくい。こんな時、地域において、会員同士が子育てを助け合うシステムです。【依頼会員】市内在住・在勤でおおむね生後6カ月から小学校6年生までのお子さんをお持ちの方【提供会員】市内在住で心身ともに健康な20歳以上の方【両方会員】提供会員と依頼会員を兼ねることができる方ファミリー・サポート・センターでは随時、依頼会員、提供会員ともに募集しています。特に、子育ての経験を活かしたい方、短い時間なら応援できそうな方の提供会員への登録をお待ちしています。事務局：☎997-4321（たいばら児童館内）依頼会員…育児の援助を受けたい方 提供会員…育児の援助を行いたい方

◎ワーク・ライフ・バランス実現度と仕事への意欲

○今の仕事に目的意識を持って積極的に取り組んでいる



(備考) 1. 男女共同参画会議少子化と男女共同参画に関する専門調査会「少子化と男女共同参画に関する意識調査」(平成18年)より作成。2. 「ワーク・ライフ・バランス実現度」: 「あなたにとって、仕事と生活のバランスは、うまくとれていると思いますか」への回答。3. 「仕事への意欲」: 「あなたは、今の仕事に目的意識を持って積極的に取り組んでいますか」への回答。